先生方へ

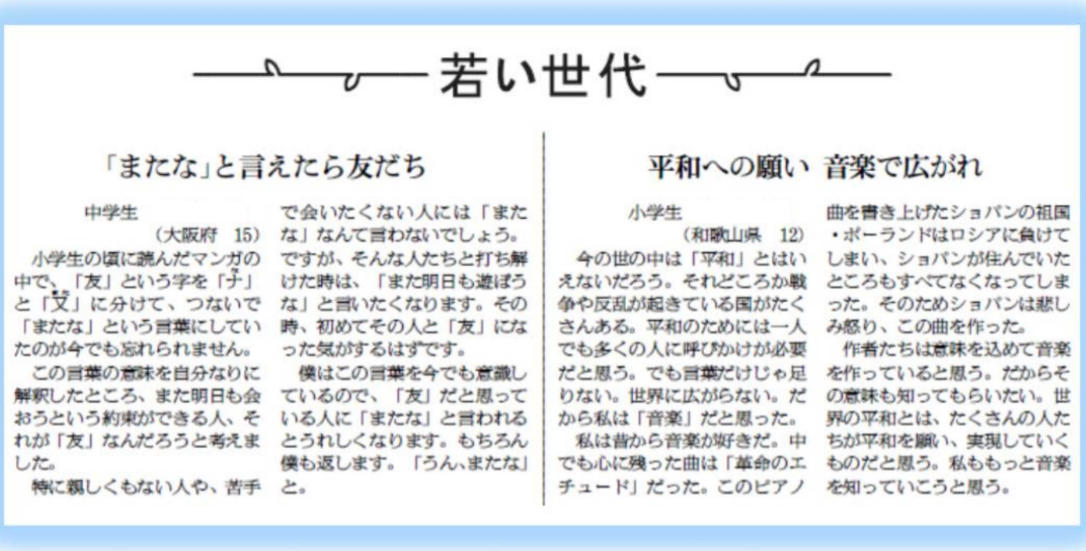
作文をお送り下さい

授業・宿題で生徒さんが書いた作文をお寄せください

2017年でちょうど100年を迎えた
朝日新聞読者投稿欄「声」掲載にチャレンジしましょう

Voice 声 100年

毎週金曜に掲載



若い世代

「またな」と言えたら友だち

中学生
（大阪府　15）

小学生の頃に読んだマンガの中で、「友」という字を「ナ」と「又」に分けて、つないで「またな」という言葉にしていたのが今でも忘れられません。

この言葉の意味を自分なりに解釈したところ、また明日も会おうという約束ができる人、それが「友」なんだろうと考えました。

特に親しくもない人や、苦手で会いたくない人には「またな」なんて言わないでしょう。ですが、そんな人たちと打ち解けた時は、「また明日も遊ぼうな」と言いたくなります。その時、初めてその人と「友」になった気がするはずです。

僕はこの言葉を今でも意識しているので、「友」だと思っている人に「またな」と言われるとうれしくなります。もちろん僕も返します。「うん、またな」と。

平和への願い　音楽で広がれ

小学生
（和歌山県　12）

今の世の中は「平和」とはいえないだろう。それどころか戦争や反乱が起きている国がたくさんある。平和のためには一人でも多くの人に呼びかけが必要だと思う。でも言葉だけじゃ足りない。世界に広がらない。だから私は「音楽」だと思った。

私は昔から音楽が好きだ。中でも心に残った曲は「革命のエチュード」だった。このピアノ曲を書き上げたショパンの祖国・ポーランドはロシアに負けてしまい、ショパンが住んでいたところもすべてなくなってしまった。そのためショパンは悲しみ怒り、この曲を作った。

作者たちは意味を込めて音楽を作っていると思う。だからその意味も知ってもらいたい。世界の平和とは、たくさんの人たちが平和を願い、実現していくものだと思う。私ももっと音楽を知っていこうと思う。

■投稿先　東京・西部・名古屋・北海道
〒104・8661
東京・晴海郵便局私書箱300号
朝日新聞「声」
FAX　0570・013579／03・3248・0355
メール　tokyo－koe@asahi. com（東京・北海道）
seibukoe@asahi. com（西部）
mei－koe@asahi. com（名古屋）

■投稿先　大阪
〒530・8063
大阪北郵便局私書箱44号
朝日新聞「声」
FAX　06・6223・0737
メール　dai－koe@asahi. com

▼550字以内。住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号（携帯も）を明記
▼実名原則。他の投稿欄との二重投稿はお断りします。メール投稿の際の添付ファイルはご遠慮下さい
▼趣旨を尊重しながら編集を加えることがあります
▼原稿は返却しません。採否の問い合わせにはお答えできません

小学生の掲載作

亡き曽祖母の教え 私の心に

小学生
（広島県　12）

私は母、祖母、祖父、伯父の５人家族ですが、１年前までは曽祖母がいました。

曽祖母はいつも自分より人のことばかり考える人でした。家族中で一番しっかりしていて、私のよき相談相手であり、父のいない私の心の支えでした。94歳まで長生きし、遺体はかねての希望で、広島大学の白菊会にけん体しました。けん体とは、医学の発展や研究にその体を役立てることです。

曽祖母は若いころ、29歳の息子を病気で亡くし、当時はめずらしかった臓器提供を選びました。それをきっかけに曽祖母は人の役に立つこと、けん体を考えるようになったそうです。

私は、小さなことでもいいので人の役に立ち、困っている人に手をさしのべられるような人になりたいです。曽祖母の教えは私の心に生き続けています。

曽祖母の話を詳しく紹介することで
「人の役に立ちたい」という夢への強い思いがはっきりしました

ゆめはパティシエ がんばる

小学生
（岡山県　9）

わたしのしょうらいのゆめは、パティシエです。スイーツを食べるのも作るのも大すきだからです。家でプリンやカップケーキ、クッキーなどを作っています。家族に話すと、「パティシエになりたいんだね。がんばってね」と言ってくれました。うれしかったです。

パティシエになるために、たとえば週に１回スイーツを作り、家族のだれかがたん生日の時にはケーキを作ってあげるなどしています。ほかに、図書館に行っていろいろな国のスイーツの作り方を調べて、じっさいに作ってみたりしています。高校はスイーツのべんきょうができるところに行って、しょうらいぜったいにパティシエになろうと思います。

しょうらいのゆめをあきらめずにこれからもがんばっていきたいと思います。

家でスイーツを作っていることや志望高校のことまで、パティシエの夢をかなえる努力が良く分かります

そうじで身につく大切な力

小学生
（大阪府　11）

ある国では「学校で子供がそうじをするのはおかしい、まちがっている」と考えるそうです。でも、私はそうは思いません。

みんなでそうじをすることでどうしたらきれいになるか、この場所はどこをそうじしないといけないのか、自分で考えられるようになるからです。将来大人になって、家や会社でそうじをするときにも困りません。

そうじを大人や専門の人がしていると、子供はやらなくてもいいやと思ってしまいます。私の学校ではそうじを自分たちでするのでいやだなぁと思う時もありますが、そうじをしているうちに自然と身につけられることもあります。家でのお手伝いが当たり前のようにできるし、家の人もうれしいと思います。

学校で子供がそうじをするのは大切なことで、まちがったことではないと思います。

なぜ学校でそうじをするのか、
自分でじっくり考えた意見が分かりやすく書かれています

お父さん やっぱりすきかも

小学生
（兵庫県　9）

わたしのお父さんは、あんまりやさしくありません。休みの日はいつも自分のことばかりしていて、あんまり遊んでくれません。今日はお父さんが家にいるから楽しくなるときたいしても、よそう外で、がっかりしてしまいます。

それなのに。そう、あんな人なのに。なぜ、毎日、家に帰ってくるのが待ちどおしいのでしょうか。

それはやっぱり、あんな人でも、わたしが「すき」と思っているからじゃないでしょうか。だって、すきじゃなかったら、待ちどおしくないでしょう。いざとなったら、けっこう、やさしいし。

でも、もうちょっとやさしく、もうちょっと遊んでくれるお父さんになってほしいです。そうしたら、もっとお父さんのことをすきになれると思います。

お父さんが「すき」な気持ちが伝わってきます。
読んだお父さんもうれしかったのではないでしょうか

＜掲載までの流れ＞

①学校に電話、先生の許諾をもらいます
②児童・生徒と話をします
③親御さんの許諾をもらいます
④掲載文案に「了解」をいただきます

＜投稿にあたって＞

①書いた作文は選別せずに送付して
②担当者とのやりとりも「勉強」「体験」
③掲載されたら校内掲示などに活用を

**自分の体験を
具体的に書くのがポイント**